

第 49 期生卒業証書授与式あいさつ

- 既に春一番も吹き、春を迎えようとしているこの佳き日に、PTA 会長の加藤 佳代子(かとう かよこ)様、同窓会長の田 中 利 明(たなか としあき)様のご臨席を賜り、神奈川県立霧が丘高等学校第 49 回卒業証書授与式が、このように盛大に挙行できますことを、職員一同、大変うれしく思っております。
- 本日、ご参加の保護者の皆さま方におかれましては、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。
- 思い起こせば高校入学にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限の中で、なかなか思うような中学校生活を送れずに、高校の学校生活に「期待」と「希望」をもって入学してきたことと思います。それから3年間、卒業までは、不安の日々だったのではないのでしょうか。
- 本日、無事に卒業を迎えられたことを、改めましてお祝い申し上げます。
- さて、49 期生の皆さん、まずは、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、本日をもって、自らが選んだそれぞれの道に向かって、大きく羽ばたいていくことになります。
- 先ほど触れさせていただいたように、皆さんにとって高校入学は、長らく続いた感染症によって制限された生活から解放され、自らが理想とする学校生活への希望に満ち溢れた生活を夢見て入学してきたことと思います。
- どうでしたでしょうか。思い描いた3年間になりましたでしょうか。あるいは、理想とは違った3年間だったでしょうか。
- 入学の際、私から本校の学校教育目標は、「心身ともにたくましく健康で、学力教養と豊かな個性、徳性を身につけた有意な人材の育成」に向け、「未来を切り拓く力の育成」、「認め合い支え合う力の育成」、「母校にプライドを感じる学校づくり」を進めているということをお伝えさせていただきました。
- そして何よりも本校は、インクルーシブ教育実践推進校であり、共生社会の実現に向けて、すべての生徒が共に学び、相互理解を深め、認め合う教育活動を実践することで、お互いを認め合い、支え合う教育活動に取り組み、集団の中で、お互いを理解しながら、社会性や思いやりの心を育むことができます。そして、社会に求められる人材となるよう精進してもらいたいとお伝えしました。
- 私は、皆さんとは、3年間、一緒に過ごさせていただきました。当初の印象としては、真面目で、感染症での学校生活の影響だったのか、少し控えめな生徒たちといった印象でした。
- しかし、2年生、3年生と年を追うごとに、少しずつ成長がみられ、3年生の時には、体育祭や文化祭などの学校行事では、自分たちで作り上げる意識が高まり、大変頼もしく感じていました。
- 入学当時は、校舎の耐震工事によってプレハブでの授業もあり、工事終了後

は、体育館工事があり、目まぐるしく変わる施設環境の中で、その時々に応じて、自分たちなりに学校生活を過ごすことができる皆さんは、とても柔軟な姿勢を持っていることに感心しました。

- その柔軟な姿勢は、皆さんがこの高校生活において培った、大きな力であり、皆さんが、本校において取り組んだ「インクルーシブ教育」によって育まれたものだと感じています。
- これから皆さんが進む社会は、絶え間ない技術革新によって社会構造が大きく変化しています。皆さんが育んだその「柔軟な姿勢・力」は、そんな予測困難な時代においては、大きな財産であり、大きな力として皆さんを支えてくれるはずです。
- インクルーシブ教育実践推進校で学んだ3年間は、貴重な時間であり、その学びをいかして、これからも他者を理解し、様々な人と協働しながら共生社会の実現に向けた担い手として活躍してもらいたいと思います。
- 結びに、皆さんには、「challenge！～未来を切り拓け～」の精神を忘れず、自らの力を伸ばすとともに、自分の可能性を信じ、これからの社会のために大いに力を発揮してもらいたいと願っています。皆さんにはまだまだ可能性があります。
- 自らを諦めることなく、大きな希望、大きな目標に向かって進んでもらいたいと思います。そのために、常に笑顔を中心掛けてもらいたい、その笑顔が必ず、皆さんをよい方向に導いてくれると思います。このことを、私から卒業生に向けたはなむけの言葉といたします。
- これからの皆さんの活躍を大いに期待し、皆さんの健康を祈念しています。
- 本日は、誠におめでとうございます。

令和8年3月3日

校長 都丸利幸